

2027 年2月期第 2 四半期(中間期) 決算説明会

概要

企 業 名:東宝株式会社

証券コード:9602

イベント名:2027年2月期第2四半期(中間期) 決算説明会

日 程:2026年10月16日(金)

時 間:15:30 -16:30

登 壇 者:代表取締役社長 社長執行役員 松岡 宏泰、代表取締役 副社長執行役員 太古 伸幸

2027年
2月期
2Q業績/
通期業績
予想

- ・ 2Q累計(中間期)業績: 営業収入1,851億円、営業利益309億円。前年の大ヒット作品の反動減や TOHO Globalの会社分割の期ズレ影響あるも、映画事業やIP・アニメ事業が底堅く推移
- ・ 映画事業: 2Q(6-8月)は映画『ちいかわ』が大ヒットし、関連グッズの販売も好調。映画興行 (TOHOシネマズ)は7月の映画鑑賞料金の一部改定後も動員が堅調
- ・ IP・アニメ事業: 期ズレ影響が平準化。配信収入増もあり大幅増収。一過性費用の発生や先行投資
 - 2Qに、TOHO Globalの会社分割に伴う期ズレ(4-5月分)を取り込み
 - 海外で自社展開網強化のための先行投資を強化。足元はIP・アニメ事業の利益率を押し下げも、IPをより多くの海外ファンにお届けし、早期の収益化を図る
- ・ 通期連結業績予想
 - ・ 営業利益620億円(据え置き)、最終利益480億円(期初比+70億円の上方修正、9月政策保有株式売却を反映)
 - ・ 2Q累計は概ね計画通り進捗も、映画『ちいかわ』『ゴジラ-0.0』の一定ヒットは織り込み済みのため、下期大型作品の初動を慎重に見極めた結果、期初計画を据え置き

トピックス

- ・ 映画『ゴジラ-0.0』を11月に世界同時期公開。グローバルに自社配給し大ヒットを狙う
- ・ 映画やアニメは2027年以降の大型ラインナップに期待。今後、順次発表予定
- ・ 一部の不動産売却(8/17発表)、及び政策保有株式の一部売却を実施(9/15売却)
→「土台」と「爆発力」: 強固な事業基盤の土台にコンテンツの爆発力を掛け合わせ、業績上積みを目指す

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 3

松岡: 社長の松岡でございます。本日はお忙しいところ、当社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。早速ですが、エグゼクティブサマリーからご説明いたします。

第2四半期は、営業収入が1,851億円、営業利益が309億円となりました。昨年の大ヒット作品の反動減やIP・アニメ事業におけるTOHO Globalの会社分割の期ズレ影響などにより減益となりましたが、映画やIP・アニメの各事業は底堅く推移しています。

映画事業は、映画「ちいかわ」が大ヒットし、関連グッズの販売も好調でした。また、映画興行のTOHOシネマズは、7月より映画鑑賞料金を一部改定いたしました。その後の動員数も堅調に推移をしています。

IP・アニメ事業は、会社分割の期ズレによる影響が第2四半期に入り平準化しつつあり、配信収入の増加により、大幅増収となっております。一過性費用の発生や先行投資のため、営業利益は減益となりましたが、IP・アニメ事業の実態面は大変に好調だったと評価をしています。

通期連結業績予想は、営業利益620億円で期首予想を据え置きつつ、最終利益は480億円と期初予想比70億円の増益で見直しました。これは、9月に実施した政策保有株式の売却を反映したことによるものです。なお、営業利益を据え置いた理由は、第2四半期累計期間の進捗はおおむね計画どおりだったものの、期初時点で既に映画「ちいかわ」や「ゴジラ-0.0」の一定のヒットを織り込み済みであったこと、および下期大型作品の初動を慎重に見極めたことによるものです。

トピックスです。映画「ゴジラ-0.0」は国内11月3日、北米は11月6日に公開し、以降、世界約80カ国で上映し、大ヒットを狙ってまいります。

映画作品やTOHO animation作品において、2027年以降の大型ラインナップに期待しており、今後、順次発表をしていく予定です。また、資本効率向上の施策として、一部の不動産売却や政策保有株式の一部売却を実施いたしました。当社の強固な事業基盤の土台にコンテンツの爆発力を掛け合わせ、業績の上積みを目指してまいります。

27/2期2Q累計(中間期)連結業績ハイライト

(百万円)	2026年2月期 2Q累計(中間期)	2027年2月期 2Q累計(中間期)	増減	増減率	
営業収入	191,677	185,162	△6,515	△3.4%	前年同期は大ヒット作品 ('鬼滅の刃'「国宝」)があっ たこと等により減収
営業原価	107,004	102,078	△4,926	△4.6%	
売上総利益	84,672	83,083	△1,589	△1.9%	
販売費及び一般管理費	43,525	52,144	8,618	19.8%	会社分割の影響、一過性費用、 海外事業の先行投資等によ り減益
営業利益	41,146	30,938	△10,207	△24.8%	
営業外収益	2,147	3,497	1,349	62.8%	
営業外費用	1,102	1,308	206	18.7%	
経常利益	42,192	33,127	△9,064	△21.5%	前年同期は政策保有株式を 売却
特別利益	8,913	—	△8,913	—	
特別損失	689	1,256	567	82.3%	
親会社株主に帰属する 中間純利益	33,450	20,019	△13,430	△40.2%	固定資産解体費用が増加

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 4

連結業績ハイライトです。

前年同期比較では減収減益となりましたが、中間純利益につきましては、前年同期に政策保有株式の売却があったこともその要因となっております。

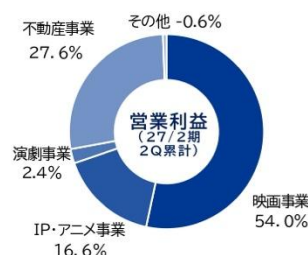
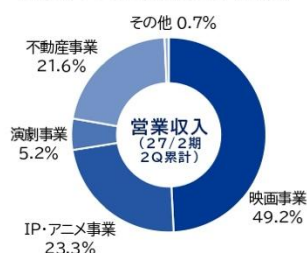
なお、今期は第3四半期に政策保有株式の売却に伴う特別利益約111億円の計上を予定しております。

エグゼクティブサマリー

27/2期2Q累計(中間期)セグメント別業績一覧

	(百万円)	2026年2月期 2Q累計(中間期)	2027年2月期 2Q累計(中間期)	増減	増減要因 (上段:営業収入、下段:営業利益)
映画事業	営業収入	103,709	91,177	△12,532	・ 前年同期の大ヒット作品(「鬼滅の刃」 「国宝」)の反動等により減収 ・ 減収の要因に加え、人件費や減価償 却費が増加したこと等により減益
	営業利益	23,193	19,400	△3,793	
	利益率	22.4%	21.3%	△1.1ポイント	
IP・アニメ 事業	営業収入	37,313	43,132	5,818	・ 配信収入(海外)が好調だったことにより、増収 ・ 条件付対価に関する一過性費用や海外事業の先行投資等により減益
	営業利益	10,698	5,970	△4,728	
	利益率	28.7%	13.8%	△14.8ポイント	
演劇事業	営業収入	10,698	9,589	△1,108	・ 前年同期は「『ナイト・テイル-騎士物語-』 「ARENA LIVE」『レ・ミゼラブル』等 が貢献。減収減益に
	営業利益	997	845	△151	
	利益率	9.3%	8.8%	△0.5ポイント	
不動産事業	営業収入	39,314	40,008	693	・ 大規模な橋梁補修工事(道路事業)が 順調に進捗したこと等により増収 ・ 道路事業において前年同期にあった 価格スライドの影響が剥落。減益に
	営業利益	10,463	9,895	△567	
	利益率	26.6%	24.7%	△1.9ポイント	
その他事業	営業収入	641	1,254	613	・ 新たにTOHO-ONEの会費収入を計 上した等により増収 ・ TOHO-ONEのポイント施策に伴う 販売促進費計上等により、減益に
	営業利益	71	△207	△279	
	利益率	11.2%	△16.5%	△27.7ポイント	
調整額		△4,278	△4,965	△686	・ 減価償却費や業務委託費の増加等
合計	営業収入	191,677	185,162	△6,515	—
	営業利益	41,146	30,938	△10,207	—

事業セグメント別の構成比(調整額を除く)



©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 5

セグメント別の業績一覧となります。こちらは、のちほどご確認いただければと思います。

映画事業：配給・興行ともに好調

- ・映画配給：「名探偵コナン」「ちいかわ」、洋画作品のヒット等により、業界全体が好調に推移
- ・映画興行(TOHOシネマズ)：
 - 映画鑑賞料金を一部改定(7月～)
 - 大井町(3月)・名古屋栄(6月)がオープン
 - OSシネマズミント神戸、神戸ハーバーランドがグループイン(10月)
- ・実写企画開発：「ガス人間」をNetflixドラマでリブート。「薬屋のひとりごと」を配信予定



	2026年2月期	2027年2月期	
		期初見通し	10/15時点見通し
国内全国興収 ※2025年1～12月 ※ODSを含む(但し「中絶」を除く)	2,744億円	2,500～2,600億円	2,500～2,600億円
東宝配給作品興収 ※ODS(TOHO NEXT)を含む	1,399億円	900～1,000億円 ※「ゴジラ-0.0」の海外興収を除く	950～1,050億円 ※「ゴジラ-0.0」の海外興収を除く
東宝配給作品数 ※洋画作品を除く	44作品 (うち幹事12作品、出資13作品、TOHO NEXT16作品)	32作品 (うち幹事7作品、出資13作品、TOHO NEXT8作品) ※4/14時点の発表済みのみ 2027年以降の公開日未発表作品を含む	48作品 (うち幹事7作品、出資27作品、TOHO NEXT12作品) ※10/15時点の発表済みのみ 2027年以降の公開日未発表作品を含む



Netflixシリーズ「ガス人間」
(Netflixにて2026年7月2日(木)世界独占配信)

「薬屋のひとりごと」
(2028年にPrime Videoで配信予定)

©2026 東宝映画/名探偵コナン制作委員会 ©2025 Nintendo and Universal Studios. All Rights Reserved. ©ナガノ / 2026「映画ちいかわ」制作委員会 ©2026 TOHO CO., LTD. ©2028 Amazon Content Services LLC or its Affiliates and TOHO CO., LTD. ©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved. 6

ここからは、各事業におけるトピックスをご説明いたします。

まずは映画事業です。映画事業は「名探偵コナン」「ちいかわ」などの邦画作品に加え、洋画作品もヒットいたしました。また、7月の鑑賞料金の一部改定後も動員は堅調です。TOHOシネマズでは、大井町と名古屋栄が3月と6月にそれぞれオープンし、10月からはOSシネマズの2劇場が新たにグループインいたしました。これにより、TOHOシネマズは国内79サイト、743スクリーンとなります。

実写企画開発では、Netflixドラマでリブートした「ガス人間」が大好評でございました。また、発表済みの配給作品数も順調に増加し、下期以降の作品も大変期待をしております。

映画「ゴジラ-0.0」、11月に世界同時期公開

- 「ゴジラ-0.0」を11月に世界同時期公開
- 海外ではTOHO Global*が自社配給網を本格稼働。世界規模のヒットを狙う
*GKIDS(北米)、Anime Limited(欧州)、Toho Entertainment Asia(アジア)

国内

- 公開日:11/3(火・祝)、全国劇場公開
- 11/3にゴジラ・フェス2026開催
- 日本映画初のFilmed For IMAX作品*2
- 宣伝展開:TV金曜ロードショーで前作「ゴジラ-1.0」の放送(10/30)。特別番組の展開。第39回東京国際映画祭で上映等。TOHO-ONEとのコラボレーション
- 国内公式チャンネル予告編再生回数:530万突破*1

海外

- 11/6の北米上映を皮切りに、世界約80カ国で上映
- 宣伝展開:ロサンゼルス・ドジャースとのコラボイベント「Godzilla Minus Zero Night」を開催。第64回ニューヨーク映画祭で世界初披露等
- 海外向け公式チャンネル予告編再生回数:1,300万突破*1
- 映画批評サイトRotten Tomatoesにて、専門家支持率(TomatoMeter)で高い評価を獲得*3

*1 9/8の公開以降、10/15までの再生回数
*2 IMAXが認定した高解像度カメラで撮影され、IMAX劇場の上映に最適化された映画
*3 レビュー数41(支持率95%)、10/15時点

前作「ゴジラ-1.0」との比較

	ゴジラ-1.0	ゴジラ-0.0
公開日(日本/北米)	2023年11月3日/12月1日	2026年11月3日/11月6日
グローバル興収(国内/海外)	約160億円(76.5億円/5,600万米ドル(1米ドル150円換算))	-
国内上映館数	初週377	初週383
北米上映館数	初週2,308館	ゴジラ-1.0を上回る規模を予定
海外自社配給		
北米	Toho International	GKIDS
欧州	-	Anime Limited
アジア	-	Toho Entertainment Asia
海外上映国数	約50カ国	約80カ国
ゴジラ・ストア店舗数	国内2	国内7、海外1



ロサンゼルス・ドジャースとのコラボイベント



© 2026 TOHO

次に、映画「ゴジラ-0.0」です。

いよいよ来月11月3日より国内公開、6日より北米公開となります。海外においては、GKIDSをはじめとした自社配給網が本格稼働を始めてまいります。既に国内の予告編再生回数は530万回、海外では1,300万回を超え、海外の映画評価サイトでも高評価を得ており、前回を上回る上映国数と映画館数で世界規模のヒットを狙ってまいります。

今後も国内外での宣伝施策を続け、万全の態勢で公開を迎えたいと考えております。

アニメ新作『ファントムバスターズ』2027年TVアニメ化決定

- **2027年にTVアニメ化決定**
 - ネオショコによる『ファントムバスターズ』のTVアニメ化決定
 - 集英社「ジャンプSQ.」にて大人気連載中
 - コミックス累計発行部数140万部(電子版含む)
- **高い注目度と人気を誇るタイトル**
 - 「全国書店員が選んだおすすめコミック2025」2位を獲得
 - 「アニメ化してほしい漫画ランキング2025」4位を獲得
- **国内ファンだけでなく海外にもファンが多い作品**

ストーリー

『霊を喰う力』を持つ高校生・穴喰野虎落(モガリ)、靈感0の超優等生・是岸遊人(コレシキ)、霊が視える漫画オタク・観崎薫(ザキ)、霊と話せるが人間が苦手な多聞康太郎(タモン)。デコボコ4人組で結成した、除霊をする部活・ファントムバスターズのドタバタな青春劇。

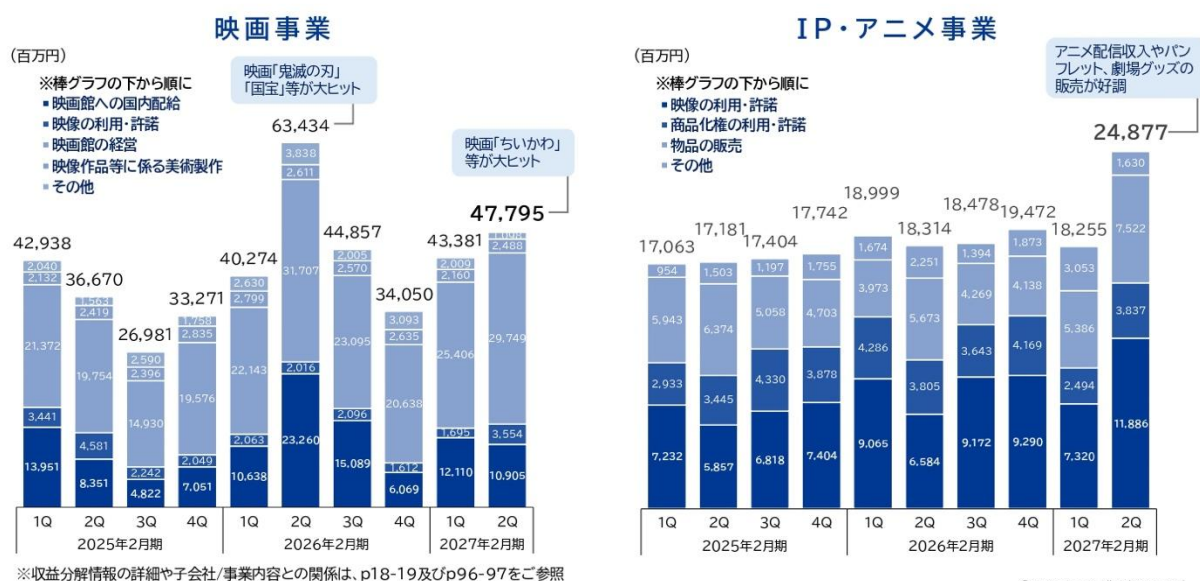


©ネオショコ/集英社

次に、先日発表いたしましたアニメの新作についてです。

集英社「ジャンプ SQ.」で大人気連載中の「ファントムバスターズ」を、2027年にTVアニメ化いたします。「ファントムバスターズ」は国内のみならず、海外にもファンが多い作品です。

人気の高いIPであるため、今後「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」「ハイキュー!!」のようなシリーズ作品として継続できることを目指していきたいと思っております。



次に、映画および IP・アニメ事業の営業収入の四半期ごとの推移です。

映画事業の前年同期は、映画「鬼滅の刃」や「国宝」の記録的な大ヒットにより、極めて高水準な収益を計上しておりました。当第2四半期においても「ちいかわ」が好調に推移し、業績を堅調に牽引いたしました。

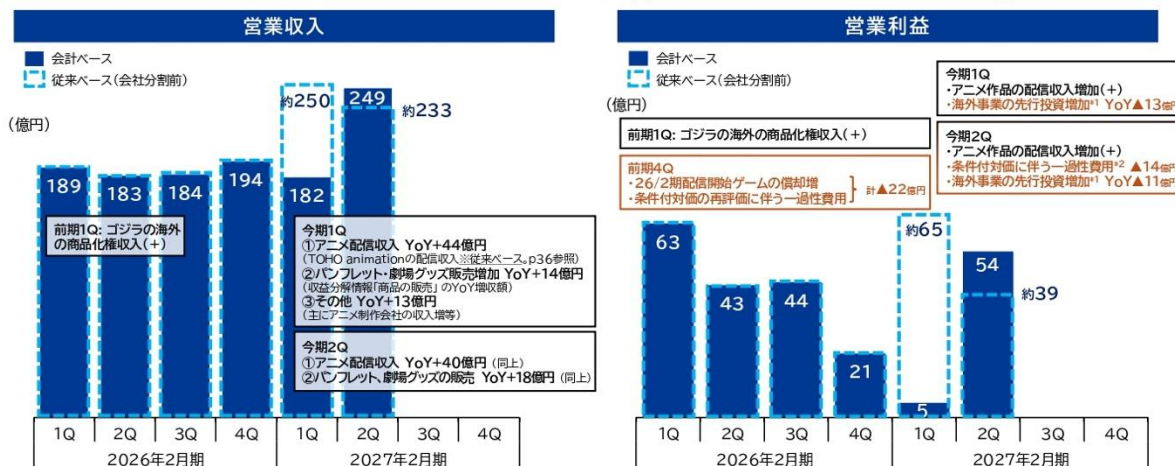
IP・アニメ事業は、これまで安定的に営業収入を計上してまいりました。

当第1四半期では、TOHO Global の会社分割により、会計ベースでマイナス影響があったものの、海外におけるアニメ配信収入が増加し、大きな減益には至りませんでした。

当第2四半期では、会社分割の影響がほぼ平準化したことに加え、アニメの配信収入が第1四半期に引き続き増加したことや、パンフレットや「ちいかわ」をはじめとする劇場グッズの販売が好調に推移いたしました。

IP・アニメ事業:大幅増収と一過性費用/先行投資

- ・営業収入: 新作以外のアニメ作品の配信収入が増加し、大幅増収
- ・営業利益: 配信収入増加による増益があったものの、会社分割影響に加え一過性費用や先行投資の販管費増加により下振れ
- ・3Q以降: 配信収入の継続(主に新作以外のアニメ)、『ゴジラ-0.0』の貢献(主に海外配給、関連グッズ・パンフ)に期待



*1 以下の子会社の販管費の合計: TOHO Global 株式会社, Toho International, Inc., TOHO Entertainment Asia Pte. Ltd., GKIDS, INC., TOHO Europe Limited, Anime Limited. 海外人員の増加の詳細は、p75参照
 *2 買収先事業における主要施策の順調な進捗に伴う条件付対価の一過性費用。前期4Qの一過性費用は対価の支払義務増加に伴い発生したが、今期2Qは最終決算によるものであり、3Q以降に同様の費用は発生しない。

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 10

次に、IP・アニメ事業の営業収入と営業利益の説明です。

まず営業収入は、アニメ「呪術廻戦」といった前期に放送を開始したアニメ作品の配信収入が増加し、大幅な増収となりました。営業利益については、配信収入の増加による増益があったものの、一過性費用や海外事業の先行投資による販管費増加により下振れております。今年3月のTOHO Globalの会社分割に伴う2ヵ月間の決算期のずれの影響は継続しておりますが、第3四半期以降も配信収入の継続や、映画「ゴジラ-0.0」の海外配給、関連グッズ、パンフレットなどの貢献に期待をしております。

なお、棒グラフでは、参考として会社分割がなかった場合の従来ベースでの数値も記載しております。従来ベースの営業収入で見ますと、アニメ作品の配信収入などの増加により、今期に入り、過去に比べて大きく増収しております。ただし、営業利益については、従来ベースでは当第2四半期に条件付対価の再評価に伴う一過性費用の発生や海外事業の先行投資などにより、前年同期に比べ下振れております。

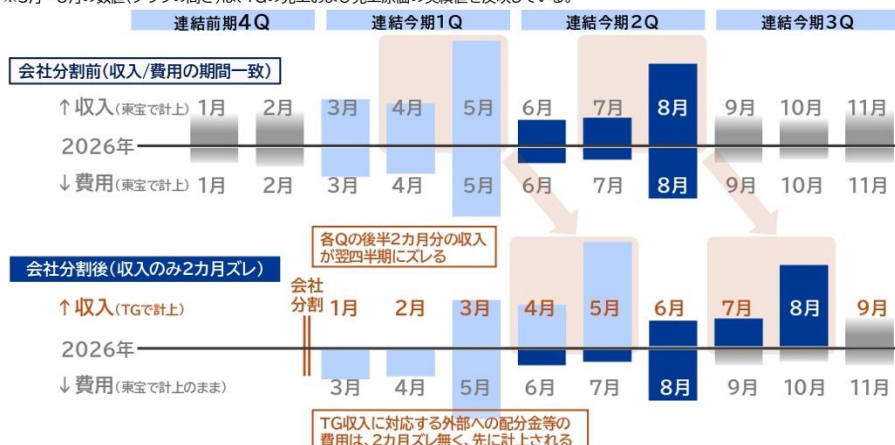
このように、営業収入においては大変好調に推移をしております。営業利益の下振れは、将来のリターンをもたらす一過性費用に加え、IP・アニメの世界的な市場価値をさらに高めるための展開エリアや、自社バリューチェーンを広げるための先行投資によるものだとご理解いただければ幸いです。

IP・アニメ事業：会社分割による海外収益の期ズレ

- ・会社分割(2026年3月に実施)：海外子会社「TOHO Global(TG)」にて海外収益を直接認識する体制へ移行
- ・決算期の相違：東宝本体(2月決算)とTG(12月決算)の決算期相違に伴い、連結調整(期ズレ)が発生
- ・期ズレ拡大の要因：アニメ作品の海外配信収入の大幅な増加(特に5月、8月)に伴い、連結調整額が拡大

海外収益の会社分割前・後

※3月～8月の数値(グラフの高さ)は、TGの売上および売上原価の実績値を反映している。



海外収益の計上主体および役割分担の比較

	2026年2月 まで	2026年3月 以降
事業主体	東宝 (TGは業務受託)	TOHO Global (直接セールス)
決算月	2月	12月
海外事業の役割	海外セールスは東宝からTGへ業務委託	TGが直接、海外セールスを担う
収益認識方法	・東宝：営業収入を計上 ・TG：東宝からの業務受託料を計上	・TG：営業収入を計上 ・東宝：TGから配分金を受領し製作委員会に配分

参考：連結子会社への会社分割(簡易吸収分割)に関するお知らせ(26/1/14公表)

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 11

今年3月の会社分割により、海外子会社 TOHO Global が海外収益を直接認識する体制へ移行しました。

東宝本体と TOHO Global で決算期が異なるため、連結調整の期ズレが今期から発生するとともに、今期はアニメ作品の海外配信収入が大幅に増加しました。特に5月や8月で大きく計上したため、連結調整額が拡大し、従来ベースと会計ベースの数値の差異が大きくなりました。

エグゼクティブサマリー

IP・アニメ事業:IPの市場価値を最大化する海外戦略

- ・自社展開網を強化し、これまでの視聴体験の提供から、IPビジネスによるマルチ体験の提供へ
- ・縦軸(↓展開エリア)と、横軸(→自社バリューチェーン)それぞれを拡張しつつ、縦軸・横軸のメッシュをより細かく整備
- ・より緻密に、より多くのファンへマルチ体験を提供し、IPの市場価値を高める



*1 Toho International, Inc. *2 TOHO ENTERTAINMENT ASIA PTE. LTD. *3 TOHO Europe Limited *4 Anime Limited

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 12

次に、海外戦略についてです。

海外の展開エリアについては、これまで Toho International が拠点とする米国ロサンゼルスに加え、2024 年にはニューヨークを本拠地とする GKIDS の買収や、シンガポール拠点の設立を行いました。さらに今年に入り、欧州拠点を設立するなど、展開エリアの拡張を進めてまいりました。これが、本ページの図の縦軸にあたります。

次に、自社バリューチェーンです。これまでは映画配給や映像ライセンスの販売といった視聴体験の提供に限られていましたが、今後は商品化ライセンスやゲームコラボ、自社商品の製造&販売といったバリューチェーンの拡張という横軸も広げてまいります。このように縦軸、横軸のメッシュをより細かく整備し、IP ビジネスによるマルチ体験の提供へ舵を切っていきたいと思っております。

本ページの図は、当社の海外展開や拡張の進捗を示したイメージであり、色が濃いマス目は進捗度が高く、薄いマス目はこれから先に取り組んでいくものとして位置づけを示しております。映画「ゴジラ-0.0」のグローバル公開やアニメ作品の映像販売に代表されるように、映画配給、映像ライセンス展開は順調ですが、今後は他のバリューチェーンも強化しつつ、アジア・欧州やその他新興市場へ、より緻密に展開エリアを広げていく考えです。

エグゼクティブサマリー

その他事業: TOHO-ONE、会員数300万人達成

ファンエンゲージメント・プラットフォーム化へ前進。旧シネマイレージ等からの移行が進み会員数300万人を達成

会員基盤の拡大と安定化

2026年8月末で300万人規模へ成長。会員基盤を拡大



ファンとの関係を深化

スタジオツアーや会員限定公演、「ONE's VOICE*」など、TOHO-ONEならではの体験・双方向の接点を拡大し、東宝とファンのつながりを強化

*利用者から広く意見や感想を募集するために実施している投稿企画・アンケート窓口



プレミアム会員の貸切公演

TOHOスタジオツアー

IPとファンをつなぐプラットフォームへ

- 多様なIPとの連携をさらに拡大し、ファンの熱量向上とIP価値の最大化を実現するファンエンゲージメント・プラットフォームへの進化を目指す(詳細p86参照)
- 3Q以降は「ゴジラ-0.0」とのコラボ(第39回東京国際映画祭へのご招待等)をはじめ、IPやパートナー様との連携をさらに拡大予定

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 13

次に、今年3月にスタートしたファンエンゲージメント・プラットフォーム「TOHO-ONE」ですが、会員数は8月末時点で300万人規模へ拡大いたしました。

今後もファンとの関係を深化させるために、会員限定公演などの提供イベントを実施してまいります。また、目指す1,000万人の会員基盤をもとに、TOHO-ONEをIPとファンをつなぐプラットフォームへと深化させてまいります。

不動産事業：保有方針の見直しに伴う物件売却を開始(8/17発表)

保有する約130物件の定量・定性両面での保有意義を検証し、「中期経営計画2028」に基づき、保有意義の低い物件の売却を開始

- ✓ 7物件の売却：将来の収益貢献が限定的で当社にとって保有意義が低いと判断した地方及び郊外立地の物件の売却を開始
- ✓ 業績影響：7物件合計の固定資産売却益(約3億円)を計上見込み(27/2期Q2～Q4にかけて計上)
- ✓ 追加売却の予定：7物件に加え、今期中も追加で複数物件を売却予定

(8/17発表)売却7物件の概要

- ・つくば建物(茨城県つくば市、商業店舗)
- ・牛久建物A棟(茨城県牛久市、商業店舗)
- ・牛久建物B棟(茨城県牛久市、商業店舗)
- ・牛久建物C棟(茨城県牛久市、商業店舗)
- ・牛久建物D棟(茨城県牛久市、商業店舗)
- ・甲府昭和建物(山梨県中巨摩郡昭和町、商業店舗)
- ・旭川駐車場(北海道旭川市、駐車場跡地)

上記7物件の帳簿価格合計：14.3億円(2026年2月末時点)

→保有意義の低い物件の売却により創出したマネジメントリソースを
コア物件の賃料収益の最大化とグループシナジー創出へ投下

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 14

次に、不動産事業では、保有意義の低い物件の売却を開始しております。

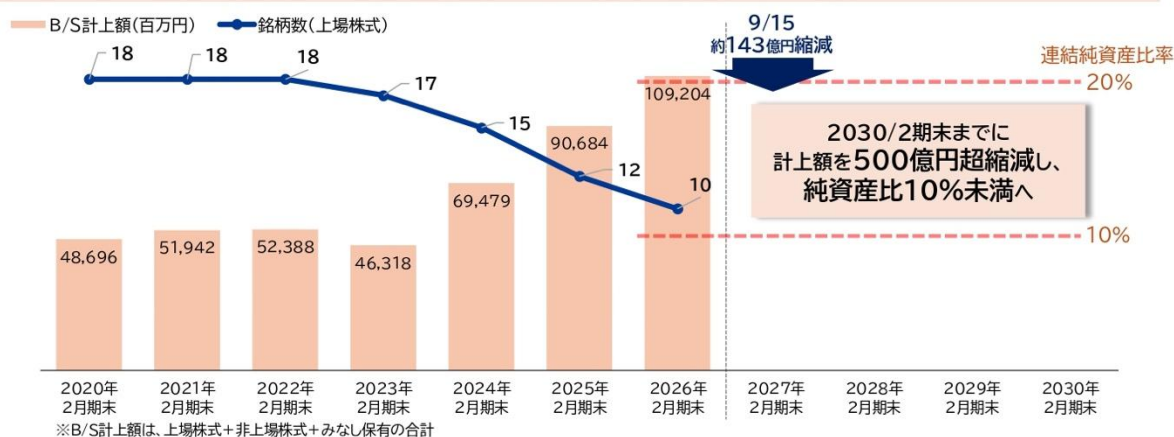
8月に発表した7物件は、いずれも地方、郊外にある小規模物件です。今期中も、追加で同様の小規模物件を複数売却予定でございます。

今後は、売却により創出したマネジメントリソースを、コア物件の賃料収益の最大化やグループシナジー創出へ投下してまいります。

政策保有株式の縮減: 今年7/15に目標を発表、9/15に一部売却

9/15に一部売却し、前期末比基準でB/S計上額を約143億円縮減(特別利益111億円を3Q期間中に計上)

目標: 2030/2期末までに、政策保有株式の計上額を500億円超縮減し、連結純資産比率10%未満に引き下げる
 - 2030/2期末に向けて段階的かつ確実に売却する。2027/2期末までに、連結純資産比率20%未満に向け確実に売却する
 - 売却資金は、成長投資に優先配分しつつ、資本効率向上のための株主還元の原資として活用する



©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 15

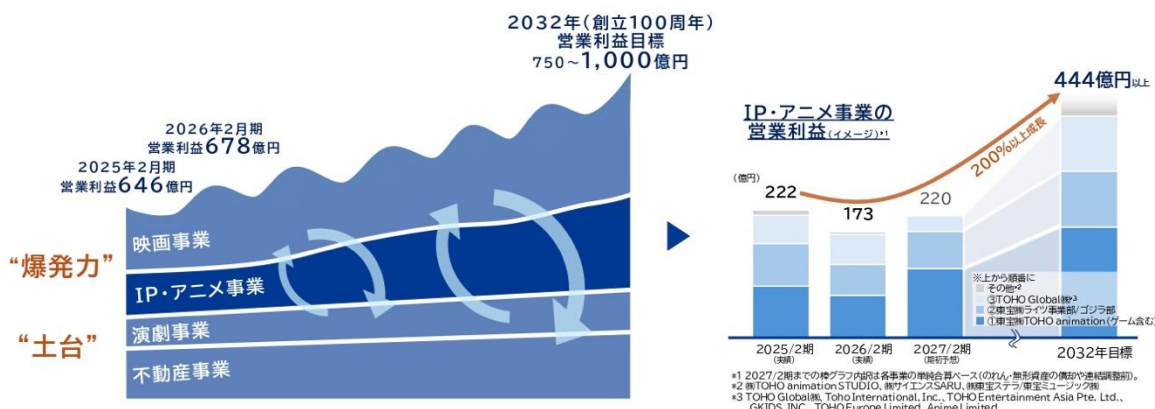
次に、政策保有株式については今年7月に新たな方針を掲げ、2030年2月期末までにバランスシート上の計上額を500億円超縮減し、連結純資産比率10%未満に引き下げることを発表しました。

そのために段階的かつ確実に売却することとし、2027年2月期末までに連結純資産比率20%未満に向け、確実に売却することも示しました。

そのような中、9月に政策保有株式の一部を売却し、バランスシートの計上額を約143億円縮減いたしました。これに伴う特別利益約111億円は第3四半期に計上するため、通期の当期純利益予想を上方修正しております。

2032年に向けて：“土台”と“爆発力”で持続的成長へ

- IP・アニメ、演劇、不動産事業の安定した土台で、エンタメ特有のボラティリティをコントロール
- 盤石な土台をもとに爆発力を生むヒットを狙い、得た知見・資金で土台をさらに厚く
- 土台と爆発力の相互作用が、長期成長を生む強固なビジネスモデルへ進化



改めて、われわれ東宝グループが目指す収益構造の進化についてご説明をさせていただきます。

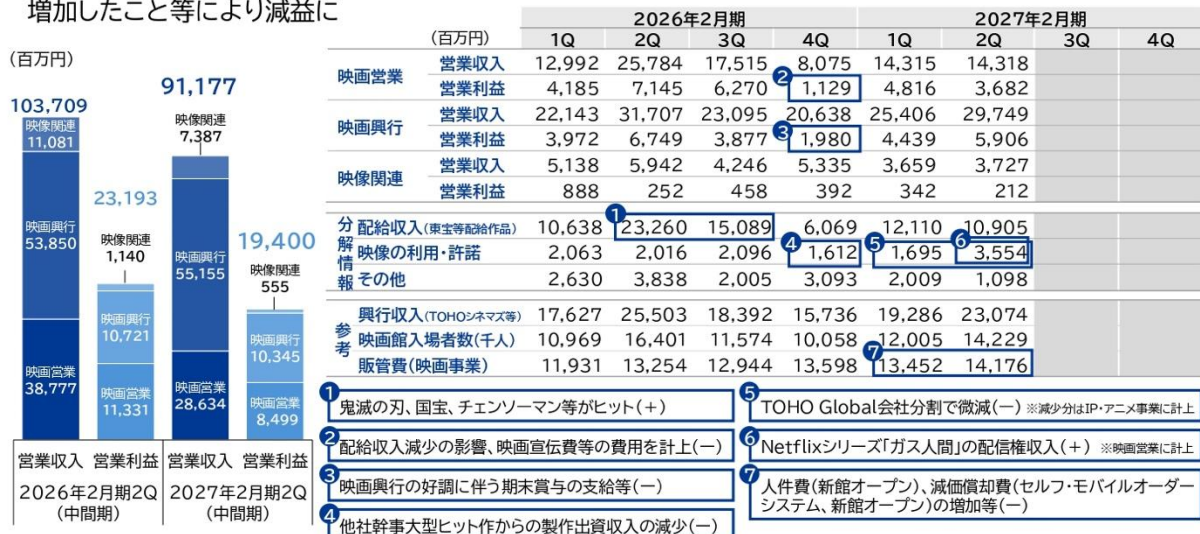
ご存知のとおり、エンターテインメント業界には特有のボラティリティがあります。これまでの当社は、安定した不動産事業を土台に映画ビジネスを展開してきました。現在は堅実なビジネスへと進化した演劇事業に加え、長期的な積み上げが可能な IP・アニメ事業も新たな土台に加わりつつあります。

このような安定した土台があるからこそ、社会現象を巻き起こすほどの大きな感動と大ヒットを狙う映画事業の爆発力が、本当の意味で生きてくると考えています。失敗を恐れず仕掛けた爆発力による利益がそのままグループの成長にプラスオンされ、そこで得た知見や資金がさらに次の新しい作品や IP を厚くしていく。このように、土台と爆発力の両方が相互に作用しながら成長する好循環こそが、2032 年に営業利益 1,000 億円を目指し、持続的な成長と企業価値向上を推進していく鍵だと考えております。

なお、2032 年の営業利益目標の達成の上で、鍵となるのが IP・アニメ事業です。2032 年に IP・アニメ事業の営業利益 444 億円以上を目指しており、これは 2025 年 2 月期の 2 倍以上の水準となります。IP・アニメ事業は、主に TOHO animation、ライツ事業部/ゴジラ部、海外の TOHO Global で構成されています。これらへの成長に向けての投資を強化し、2032 年には営業利益でそれぞれ TOHO animation で 200 億円、ライツ事業部とゴジラ部で合計 100 億円、TOHO Global で 100 億円以上の達成を狙ってまいります。

映画事業セグメントの業績

前年同期に大ヒットした「鬼滅の刃」「国宝」の反動により減収。減収の影響に加え、人件費や減価償却費等が増加したこと等により減益に



業績ハイライトについて、簡単に触れさせていただきます。

なお、各ページの表に吹き出しで、四半期ごとの分析を記載しておりますので、のちほどご確認いただければと思います。

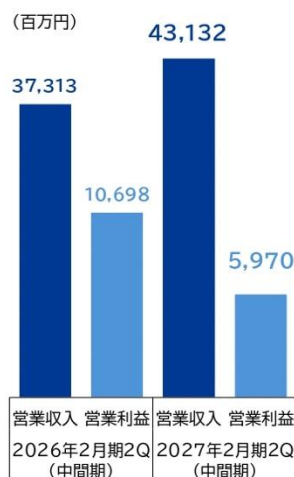
映画事業セグメントは減収減益だったものの、好調に推移しております。

業績ハイライト

IP・アニメ事業セグメントの業績

[更新(分解情報「その他」追加含む)]

配信収入(海外)及び商品の販売が好調だったことにより、増収。営業利益は一過性費用の発生や海外事業の販管費の増加等により減益(詳細はp10-11参照)



	2026年2月期				2027年2月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業収入	18,999	18,314	18,478	19,472	18,255	24,877		
営業利益	6,335	4,363	4,490	2,106	520	5,450		
営業利益率	33.3%	23.8%	24.3%	10.8%	2.8%	21.9%		
映像の利用・許諾	9,065	6,584	9,172	9,290	7,320	11,886		
商品化権の利用・許諾	4,286	3,805	3,643	4,169	2,494	3,837		
商品の販売	3,973	5,673	4,269	4,138	5,386	7,522		
その他	1,674	2,251	1,394	1,873	3,053	1,630		
のれん・無形資産償却額	532	512	519	536	568	577		
販管費(IP・アニメ事業)	3,898	4,504	4,190	6,347	5,786	7,064		

※26/2期1Qよりのれん・無形資産の償却本格化、及び販管費が増加(海外子会社の連結や成長投資)

- | | |
|---|--|
| 1 ゴジラの海外の商品化権収入(+) | 6 アニメ配信収入増等(+) |
| 2 劇場パンフ/グッズ販売好調、カードゲーム等(+) | 7 パンフレット、劇場グッズ等の販売好調等(+) |
| 3 ・26/2期配信開始ゲームの償却増(-)
・条件付対価の再評価に伴う一過性費用(-) | 8 アニメ制作会社の収入増等(+) |
| 4 条件付対価に関する一過性費用の計上(-) | 9 新規連結の海外子会社(Anime Limited)の償却開始と円安の影響による費用微増(-) |
| 5 TOHO Global会社分割の影響(p10-11参照)(-) | 10 海外事業の先行投資(人件費等の販管費)の増加等(-) |

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 19

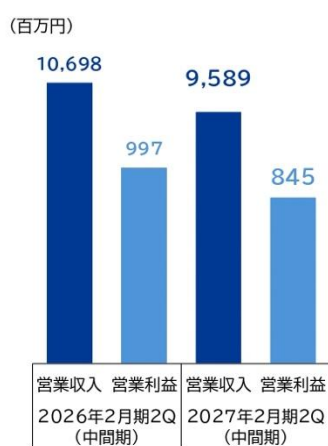
次に、IP・アニメ事業セグメントです。

前年第2四半期は、映画「鬼滅の刃」のパンフレットや劇場グッズが好調でしたが、当第2四半期は、映画「ちいかわ」の関連グッズが昨年を上回り好調でした。

業績ハイライト

演劇事業セグメントの業績

前年同期は『『ナイツ・テイル-騎士物語-』ARENA LIVE』『レ・ミゼラブル』等が貢献。減収減益に



(百万円)	2026年2月期				2027年2月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業収入	5,117	5,580	6,654	4,957	5,908	3,680		
営業利益	70	926	1,576	889	475	369		
参考 公演回数	254	176	298	175	398	141		

業績分析 (YoY増減要因)

シアタークリエ(「ブラッド・ブラザーズ」「VOICARION 10周年記念公演」「レベッカ」等)や、外部の劇場(「New HISTORY COMING ARENA LIVE -The Imperial Theatre Symphony-」「ロマンティック・アノニマス」「天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～」「チャーリーとチョコレート工場」等)を活用した主催公演作品が好調だったが、前年同期は『『ナイツ・テイル-騎士物語-』ARENA LIVE(東京ガーデンシアター)』は大入りとなった他、「レ・ミゼラブル」の外部公演等が貢献したこと等から減収

営業利益は減収に伴い、減益

演劇事業セグメントです。前年同期の大型作品の剥落で、今期は減収減益となっております。

業績ハイライト

不動産事業セグメントの業績

営業収入は堅調に推移。一方、営業利益は道路事業において前年同期にあった価格スライドの影響が剥落したこと等から減益に

(百万円)



		2026年2月期				2027年2月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
不動産賃貸	営業収入	9,474	9,419	9,433	9,450	9,385	9,373		
	営業利益	3,767	3,177	3,123	2,812	3,570	3,167		
道路事業	営業収入	7,830	6,821	6,571	8,387	7,965	7,198		
	営業利益	1,801	977	812	1,271	1,560	899		
不動産保守・管理	営業収入	2,843	2,924	3,356	2,663	3,074	3,010		
	営業利益	391	347	330	215	424	273		
参考	修繕費*	276	249	331	660	233	478		

*不動産賃貸事業(単体)

業績分析(YoY増減要因)

不動産賃貸	全国に所有する不動産が堅調に稼働したこと等により営業収入は堅調に推移。営業利益は若干の減益に
道路事業	大規模な橋梁補修工事が順調に進捗したこと等により、増収となったものの、前年同期に計上された価格スライド分の剥落等が影響し、減益
不動産保守・管理	新規業務の受注や既存取引先の仕様拡大及び請負金額の改定等に努めたものの、資材価格や労務費の上昇等の影響により、増収減益

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 21

不動産事業セグメントですが、堅調に推移をしております。

業績ハイライト

その他事業の業績 / 調整額

その他事業 ※主にTOHO-ONEの会費収入。他に東宝共榮企業株の「東宝調布スポーツパーク」、TOHOリテール株の劇場売店等の営業収入が含まれる



営業収入は、新たにTOHO-ONEの会費収入を計上したこと等により増収
営業利益は、TOHO-ONEのポイント施策に伴う販売促進費を計上したこと等から、減益に

(百万円)	2026年2月期				2027年2月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業収入	338	303	335	314	772	482		
営業利益	45	26	57	△62	△22	△184		

調整額 ※セグメント別業績における調整額であり全体の共通費用。TOHO-ONEの初期投資額の減価償却費(原則5年間で償却)が含まれる



減価償却費(TOHO-ONEのサービス開始)や主にITの業務委託費等が増加

(百万円)	2026年2月期				2027年2月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
調整額	△2,118	△2,159	△2,053	△2,938	△2,258	△2,706		

その他事業は、主に TOHO-ONE の会費収入となります。

調整額は、全社の共通費用で減価償却費や業務委託料となっております。

2027年2月期通期業績予想（2Q時（10/15）に最終利益を上方修正）

3Qの政策保有株式売却を反映し、最終利益（親会社株主に帰属する当期純利益）を70億円上方修正し、480億円に。
最終利益以外は、下期大型作品の初動を慎重に見極め、据え置き

(百万円)	2027年2月期 (4/14予想)	2027年2月期 (10/15修正)	増減	増減率	(参考) 2026年2月期実績
営業収入	345,000	345,000	—	—	360,663
営業利益	62,000	62,000	—	—	67,889
経常利益	67,000	67,000	—	—	70,140
親会社株主に 帰属する 当期純利益	41,000	48,000	7,000	17.1%	51,768

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 23

今期の通期業績予想です。

冒頭に触れましたとおり、営業利益 620 億円で期初予想を据え置きつつ、最終利益は 480 億円とし、政策保有株式の売却により、期初予想比 70 億円の増益予想としております。

営業利益を据え置いた理由ですが、第 2 四半期累計期間の進捗はおおむね計画どおりでございましたが、既に期初時点で映画「ちいかわ」や「ゴジラ-0.0」の一定のヒットを織り込み済みの中で、「ゴジラ-0.0」のグローバル公開や映画「薬屋のひとりごと」をはじめとした下期大型作品の初動を慎重に見極めたことによるものです。

なお、期初にご説明のとおり、「ゴジラ-0.0」をはじめとした当社幹事作品は、興行収入の増減による営業利益の貢献、いわゆる感応度が大きな作品となっております。

株主還元

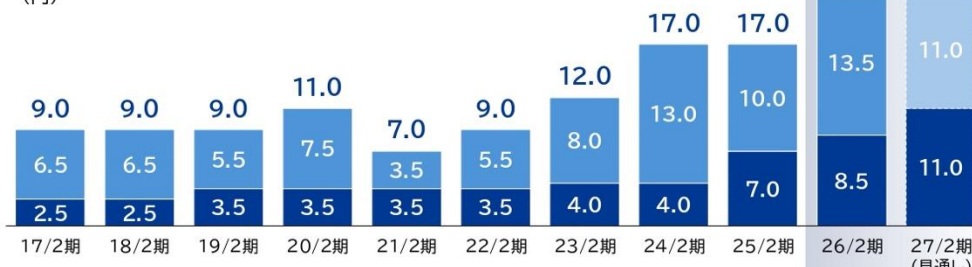
[再掲(26/2期4Q決算資料)]

2027/2期末の配当予想は、今後、株主還元方針に基づき検討

1株当たり配当額等の推移

■ 中間 ■ 期末

(円)



中期経営計画2025
年間8円/1株をベース・
連結配当性向30%以上

中期経営計画2028
年間17円/1株を下限
連結配当性向35%以上
かつ機動的な自己株式取得

	17/2期	18/2期	19/2期	20/2期	21/2期	22/2期	23/2期	24/2期	25/2期	26/2期	27/2期 (見通し)
配当性向(%)	24.6	24.2	26.8	27.0	42.4	26.9	31.5	32.8	33.4	35.9	—
総還元性向*1(%)	49.7	34.7	29.5	27.1	89.2	46.4	61.9	32.9	79.6	64.7	—
配当総額(億円)	81.7	81.1	81.0	98.9	62.2	79.6	105.1	148.6	144.6	185.3	—
自己株式の取得額(億円)	84.4	35.4	8.3	0.1	68.7	57.9	101.9	0	200.6	149.4	118.6
自己株式の消却*2(万株)	—	—	—	1,250	—	—	—	—	—	5,245	3,000

(注)2026年2月28日を基準日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施。これに伴い、過去の事業年度は、当該株式分割が行われたと仮定して、数値を算定

*1 総還元性向 = (配当総額 + 自己株式の取得額) ÷ 親会社株主に帰属する当期純利益 × 100

*2 自己株式消却の基準: 自己株式数が発行済株式総数の5%を超過した場合、消却を検討

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved 24

最後に株主還元です。

当社は、中期経営計画 2028 に基づき、1 株当たりの年間配当は 17 円、株式分割前で 85 円を下限としておりますが、今期の配当は前期実績の 1 株 22 円を維持しております。期末の配当額については、今期業績に基づき見直しを検討していく予定でございます。

私からの説明は以上となります。ありがとうございました。

以上